

CAS	100425
物質名	スチレン
IARC Vol. (発行年)	60 (1994年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ in vitro 試験系では、細菌を用いたほとんどの試験で陰性の結果であったが、代謝活性化系の存在下で陽性の結果を得た。また、ヒトのリンパ球を用いた試験系では、姉妹染色分体交換及び染色体異常を認めた。</li> <li>・ 職業的な暴露を受けた労働者について、複数の調査で染色体異常、小核の誘発及び姉妹染色分体交換を認めた。</li> <li>・ 本物質の代謝物であるスチレン-7,8-オキシド( IARC での評価の分類が 2A ) は、DNA と共有結合し、 in vivo 及び in vitro 試験系で遺伝子傷害性を示した。この物質は本物質の暴露を受けた労働者の血液中で検出された。</li> </ul>
実験動物に関する知見	<p>評価：限定された証拠</p> <p>概要：マウスへ強制経口投与した結果、雄で肺の腫瘍、雌で肝細胞の腺腫発生数のわずかな増加を認めた。ラットへの強制経口投与実験では、腫瘍の発生数増加は認められなかった。肺の腫瘍及び肝細胞腺腫がわずかに増加するとの報告もあるが、評価には不十分な情報であった。</p> <p>ラットに吸入暴露させた結果、雌で乳房の腫瘍の増加を認めたが、実験結果は確定的なものではなかった。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：職業暴露に関連した複数の疫学調査でリンパ系・造血系のがんが報告されているが、暴露量とがん発生率との関係は明確でなかった。</p>
評価結果	上記のとおり、本物質は体内における代謝物に遺伝子傷害性が認められるが、実験動物に関する知見は限定されたものであった。